

重症心身障害児のきょうだいが抱える 悩みや課題を明らかに

【本件のポイント】

- 重症心身障害児のきょうだいの経験を世界で初めて包括的に統合
- 重症心身障害児のきょうだいは心理的、社会的支援を必要とし、
介護の責任や自身の将来に不安を抱いている
- ケアに関わる専門職が提供すべき支援や情報を示唆

学校法人関西医科大学（大阪府枚方市 理事長・山下敏夫、学長・木梨達雄）看護学部こども看護学領域（学部長・三木明子、教授・大橋敦）古藤雄大講師らの研究チームは、世界中の文献に基づいて、重症心身障害児のきょうだいの経験とその構造、必要とされる支援について明らかにしました。

なお、本研究をまとめた論文が看護学の専門雑誌である『International Journal of Nursing Studies Advances』（インパクトファクター：5.2）に 2026 年 8 月 6 日（木）付でオンライン公開されました。

■ 書誌情報	
掲 載 誌	『International Journal of Nursing Studies Advances』 DOI: https://doi.org/10.1016/j.ijnsa.2026.100650
論文タイトル	Experiences of Children and Adults Having a Sibling with Profound Intellectual and Multiple Disabilities: A Qualitative Systematic Review
筆 者	Yuta Koto, Masami Tanaka, Shingo Ueki, Kazuteru Niinomi

1

< 本研究の背景 >

医療の発展に伴い、先天的な疾患や障害を持つこどもの救命率は高まりました。その結果、重度の身体障害と知的障害を併せ持つ重症心身障害児も、養育者や専門職による様々な支援のもと、地域や在宅で生活ができるようになりました。これまでに、重症心身障害児へのケアや支援、養育者へのサポートについては多くの研究が行われてきました。

一方で、重症心身障害児の家族の一員であるきょうだい^{*1}は医療機関を訪れる頻度も少なく、看護や医療の対象と考えられることが少ない現状がありました。近年の研究によって、重症心身障害児のきょうだいは様々な悩みや課題を抱えていることが明らかとなりつつあります。しかし、これまでに重症心身障害児のきょうだいの経験や悩みについて、国内外の研究も含めた包括的な取りまとめは行われていませんでした。そこで我々は世界中の論文で示された重症心身障害児のきょうだいの経験を収集し、統合することにしました。

【本件取材についてのお問合せ】

学校法人 関西医科大学 広報戦略室（佐脇・両角・林・村田）

〒573-1010 大阪府枚方市新町2-5-1

電話：072-804-2128 ファクス：072-804-2638 メール：kmuinfo@kmu.ac.jp

PRESS RELEASE

<本研究の概要>

収集した論文は、20歳未満の重症心身障害児のきょうだいに、インタビューなどの方法で経験や語りが示されたものを対象としました。世界中の論文を収集するため、日本語論文のデータベースである医学中央雑誌に加えて、医学研究のデータベースであるMEDLINEや、看護学研究のデータベースであるCINAHLなど、複数の論文データベースを用いました。これらの検索方法については、看護学におけるエビデンスの創出と活用を目標としている国際機関である、JBIの方法論に基づいて実施されました。

データベース検索で得られた51,941件の論文を1件ずつ確認し、重症心身障害児のきょうだいの経験について述べられた10件の研究を同定しました。これらの論文は日本、オランダ、ポーランドの3カ国からの報告でした。10件の論文から、39個のきょうだいの経験を示す知見を抽出し、我々は内容の類似性に基づいて統合しました。きょうだいは重症心身障害児と生活する中で、重症心身障害児を支えるための家族としての役割を担いつつ、個人として様々な経験をしていました。我々はきょうだいの経験の構造を明確にし、支援を検討するためにきょうだいを経験している事項を、人間関係の範囲を基に分類することにしました。その結果、重症心身障害児のきょうだいの経験は以下のテーマに統合されることを明らかにしました。これらのテーマは、きょうだいと重症心身障害児の関係、きょうだいと重症心身障害児を含む家族内の関係、学校や友人などの社会生活での関係の3つのレベルで整理されました。

3つのテーマ

1. きょうだい間関係（例：きょうだいの成長、受容、プライベートな時間への影響など）
2. 家族における力学（例：現在および将来のケアに関する考慮事項など）
3. 家族以外での重症心身障害児のきょうだいとしての経験（例：周囲からの誤解や支援の求め方など）

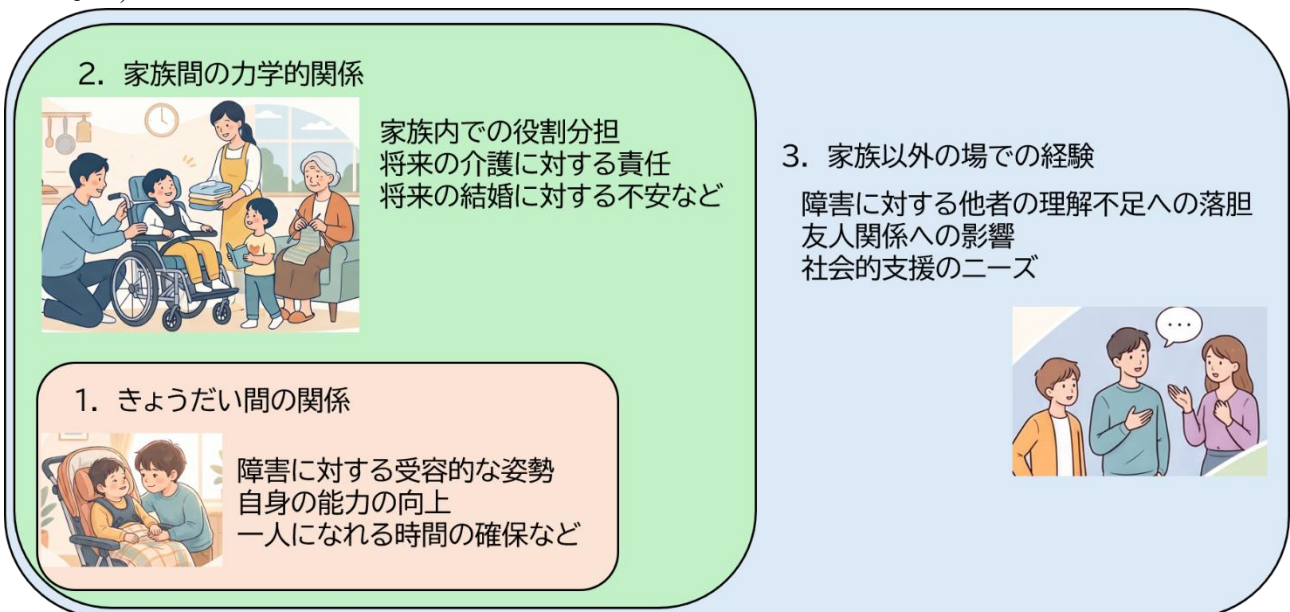


図 重症心身障害児のきょうだいの3つの関係性レベルでの経験

【本件取材についてのお問合せ】

学校法人 関西医科大学 広報戦略室（佐脇・両角・林・村田）

〒573-1010 大阪府枚方市新町2-5-1

電話：072-804-2128 ファクス：072-804-2638 メール：kmuinfo@kmu.ac.jp

PRESS RELEASE



<本研究の成果>

本研究は重症心身障害児のきょうだいの経験を包括的に統合した世界で初めての試みです。これまでに明確になっていなかった重症心身障害児のきょうだい抱える悩みや課題について明らかになったことで、今後の支援や研究について方向性を得ることができました。

本研究の結果から得られた実践への示唆として、重症心身障害児のケアや看護に携わる専門職は、きょうだいの抱える介護の責任や精神的負担に着目し、必要な支援と情報を提供すべきであることが示されました。また、将来のケアの役割分担など、家族間での話し合いを行えるような支援も必要だと考えられました。加えて、きょうだいの社会的孤立や友人関係の困難を軽減するため、医療者や学校関係者が連携し、学校環境における支援についても検討していくことが求められます。

今後、重症心身障害児が成人期になっていく過渡期における、きょうだい支援のニーズの評価を行うことで、親の高齢化に伴うきょうだいの介護役割の変化を明らかにし、重症心身障害児のきょうだい抱える悩みや課題解決に、さらにつなげていきたいと考えています。

用語解説

※1 きょうだい

性別や年齢、血縁にかかわらず、関係性に着目した表現である英語の「Sibling」の日本語訳として、本論文では「きょうだい」を採用しています。

3

<本件研究に関するお問合せ先>

学校法人関西医科大学

看護学部こども看護学領域 講師 古藤雄大

大阪府枚方市新町 2-2-2

TEL：072-804-0101（代表）

E-mail：kotou.yuu@kmu.ac.jp

【本件取材についてのお問合せ】

学校法人 関西医科大学 広報戦略室（佐脇・両角・林・村田）

〒573-1010 大阪府枚方市新町2-5-1

電話：072-804-2128 ファクス：072-804-2638 メール：kmuinfo@kmu.ac.jp